



れきし
歴史

ぶらり宮代 vol.1 旧百間村の歴史を探る “出土ヶ原”に行く！

西光院阿弥陀堂が最初に建立されたといわれる出土ヶ原は、現在の金原の西方海老ヶ島です。西光院のある東や中、金原には中世百間郷の痕跡が残されています。西光院や五社神社、神外坊、宝生院など、ぜひ訪れてください。

2 西光院 (さいこういん)

新義真言宗智山派の寺で、奈良時代の僧行基の草創と伝えられる古刹(こさつ)であり、阿弥陀如来および観音、勢至菩薩(せいしばさつ)の両脇侍からなる三尊像は、平安時代の安元2年(1176)の銘が記されています。阿弥陀如来像は像高91.5cmの坐像、両脇侍は立像で、像高104cmを測り、槍ガンナを用いた割矧(わりはぎ)造りの像です。大正3年(1914)8月に国の旧国宝(重要文化財)に指定されています。この他、徳川将軍家からは12通の朱印状と徳川家康画像、栗田口焼の茶碗を拝領しています。いずれも町指定文化財です。



徳川家康画像(西光院)



栗田口焼茶碗

3 五社神社 (ごしゃじんじゃ)

かつて百間東村の鎮守で、熊野三山、白山、山王の五社を1棟等間隔に合わせて祀ったところから五社神社と称されています。祭神は天忍穗耳命(あめのおしほみのみこと)他7柱で、文禄・慶長(安土桃山時代)の頃に建てられたものと推定されています。県指定文化財。



五社神社和鏡

本殿

みかん投げ



西光院

4 観音寺 西光院塔頭 (かんのじ さいこういんたつちゅう)

新義真言宗智山派のお寺で、かつて西光院の末寺の一つでした。歴代住職の墓石の中には「筆弟中」とあるものがあり、村人たちに読み書きなどを教えていた僧侶であることがわかります。江戸時代百間(もんま)東村を支配した旗本永井氏の家臣青井七右衛門の墓も残されています。付近には、旗本永井氏の陣屋もあったと推定されています。

5 島村家

百間(もんま)中村(宮代町字中)で江戸初期から名主を何代にも渡って勤めてきた家柄で、百間村を牽引した人々を排出した一族です。その業績は百間村に留まらず地域の文化、明治の日本の文化に貢献するものでした。著名な人物として松尾芭蕉と関係のある深川六庵の多少庵を百間に移し広めた「島村鬼吉(ききつ)」、直心影(じしんかげ)流の剣道場を開いた「島村 繁」(鬼吉の孫で盛助の父)、郷土の偉人として夏目漱石に師事した英語学者「島村盛助」がいます。

6 弥勒院 西光院門徒 (みろくいん さいこういんもんど)

新義真言宗智山派のお寺で、本尊には不動明王を祀ります。新四国八拾八箇所のうち『八拾七番』札所となっています。茅葺(かやぶき)のお寺として町内唯一となりましたが、最近解体されました。

7 神外坊 (じんがぼう)

新義真言宗智山派に属し、本尊には不動明王を祀ります。この付近は、西光院の西の総門があった場所であるといわれ寺域の広さがうかがえます。江戸時代には門のかわりとして榎木が2本植えられていました。敷地内にある石造物の中には成田講にまつわるものがありますが、道しるべを兼ねており、くぎ町(久喜町)・しょうぶ(菖蒲)、ぢをんし(慈恩寺)、こうす(鴻巣)の地名が見られます。

8 宝生院 西光院の末寺 (ほうしょういん さいこういんのまつじ)

室町時代に建立されたと伝えられている西光院の末寺の宝生院。室町時代の応永21年(1414)の銘がある鰐口(わにぐち)(鈴と同様の鳴り物で、参拝者が神仏に來訪を告げるもの)があります。本堂の前には目通り5.5mを測る町指定文化財の大イチョウがあり、樹齢400~500年と推定されています。町指定の天然記念物です。



大銀杏



鰐口